

出石地区防災計画研究

プロジェクト代表者：理工学部・教授 大窪 健之

研究メンバー：金 度源、ほか（防災まちづくり研究室、都市地域デザイン研究室）

▼研究目的

出石地区は2007年12月には国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、歴史的な町並みの維持向上に取り組んでいる。

当該地区においては、古い木造建築物などが市街中心部を中心に広く密集して分布するとともに、南側および西側エリアには河川が隣接し、南側及び東側には山地が隣接するなどの地理的な特性から、災害時に貴重な文化遺産と居住者、さらには観光客が危険にさらされる可能性がある。このため想定される様々な災害に対する防災対策が急務となっており、災害に対する現状の危険性や問題点を把握するとともに、具体的な対策方針について検討し、2020年～2021年度の2箇年で防災計画としてまとめるべく調査・研究に取り組んでいる。

これに先立ち、2019年度には予備調査を実施し、住民ワークショップや現地調査等を通して、守るべき文化的価値と検討すべき災害リスクの抽出を行った。今年度2020年度には、各チームで本格的に調査・分析を開始し、地域の災害特性と、リスクに瀕する文化的価値の評価および脆弱性について整理を行った。

▼研究成果の詳細

2020年6～9月にかけて、2019年度に実施した住民ワークショップで得られた各地区の詳細な災害リスク情報をもとに、各チームが現地の災害リスクの抽出に向けて詳細調査を開始した。

2020年9～10月には、具体的な防災・防火上の課題について整理を行い、伝建審議会や地区防災計画策定委員会等へ向けた資料作成を行った。

2020年10～12月にかけて追加調査や分析結果の集約をすすめ、地区の防災上の課題について進捗報告を行った。

2021年1～3月には調査・分析を継続し、成果の取りまとめを行い報告書を作成するとともに、論文投稿準備を実施する。

研究成果は、出石重伝建地区での地区防災計画策定に活かしていくとともに、研究面でも各チームに所属する教員の指導する学生の卒業論文・修士論文として結実する予定であり、今後学会への論文投稿を経て、広く社会に貢献していく予定である。

▼今後の研究計画・展開

出石重伝建地区の建造物の多くは伝統的木造建築であり、市街中心部に広く密集して分布しているため、防火面では一般の地区に比べて脆弱な面がある。また、南側及び西側エリアには河川が隣接、南側及び東側には山地が隣接するなどの地理的な特性から、災害時には地域住民の生命・身体及び歴史的な景観、さらには観光客が危険にさらされる可能性がある。

このため、想定される様々な災害に対する防災対策が急務であり、現状での災害時の危険性

や問題点を調査・把握の上、具体的な対策方針を分析・検討し、伝建地区に相応しい防災計画を策定することにより、災害時の危険性や被害等を最小限に抑えることが必要となっている。

2020年度の研究成果は、この2021年度の災害対策に向けた提案研究に結び付け、「豊岡市出石伝統的建造物群保存地区防災計画策定調査業務」に活かしていく予定である。